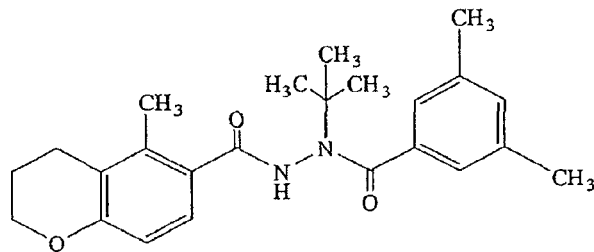


## クロマフェノジド (案)

1. 品目名：クロマフェノジド (chromafenozide)
2. 用途：殺虫剤  
本剤は、脱皮ホルモンアゴニストとして作用し、過度の形態変化を誘導し、鱗翅目害虫に対して殺虫効果を示す。
3. 化学名：2'-*tert*-ブチル-5-メチル-2'-(3,5-キシロイル)クロマン-6-カルボヒドラジド
4. 構造式及び物性



分子式	$C_{24}H_{30}N_2O_3$
分子量	394.51
水溶解度	1.12 mg/L (20°C)
分配係数	$\log_{10}Pow = 2.7$ (22°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用法は以下のとおり。

【作物名】のように記載しているものについては、今回農薬取締法（昭和23年法律第82号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

(1) 5%クロマフェノジドフロアブル剤

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロマフェノジドを含む農薬の総使用回数
りんご	ケムシ類 モキエダシヤク	2000倍	200～700 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
	ハマキムシ類	1000～2000倍					
なし	ケムシ類	2000倍		収穫前日まで	3回以内		3回以内
	ハマキムシ類	1000～2000倍					
おうとう	ハマキムシ類	1000～2000倍	収穫14日前まで				
もも	モモハダカガ	1000倍	収穫前日まで	4回以内	4回以内		
メロン、 きゅうり	ウメハダカガ	2000倍	収穫前日まで				
はくさい	ヨトウムシ	1000～2000倍	収穫7日前まで	3回以内	3回以内		
ブロッコリー			収穫前日まで				
だいこん	ヨトウムシ ハマダラメハダカガ	2000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
レタス	ハスモンヨトウ						
非結球レタス	オオタバコガ	1000～2000倍	100～200 L/10a	収穫21日前まで	3回以内		
	ハスモンヨトウ	2000倍					
ねぎ、わけぎ、あさつき	シイモジヨトウ	1000～2000倍	100～200 L/10a	収穫7日前まで	3回以内		
だいず	ハスモンヨトウ	2000～3000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで		無人ヘリコプターによる散布	
		8～16倍	800m L/10a				

(1) 5%クロマフェノジドフロアブル剤 (つづき)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロマフェノジドを含む農薬の総使用回数	
稲	コブノメイガ	1000倍	100～200 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
		16倍	800m L/10a			無人ヘリコ プターに よる散 布		
なす	ハスモンヨト ウ	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	
トマト	オオタバコガ	1000～2000倍		収穫7日前まで				
ミニトマト		収穫前日まで						
ピーマン								
ししとう		収穫前日まで						
いちご	ハスモンヨト ウ	2000倍		収穫7日前まで	4回以内			4回以内
キャベツ	ハスモンヨト ウ ハマダラメカガ			収穫14日前ま で	3回以内			3回以内
非結球あ ぶらな科 葉菜類	ヨトウムシ類			収穫前日まで	2回以内			2回以内
オクラ	ハスモンヨト ウ			3回以内	3回以内			3回以内
はすいも (葉柄)		2000～3000倍		100～150 L/10a	収穫14日前ま で			4回以内
実えんど う		1000～2000倍	200～400 L/10a	摘採7日前まで	2回以内	2回以内		
えだまめ	ヨトウムシ	1000～2000倍	200～700 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	3回以内		
てんさい	チャノコクモンハマキ チャノホガ チャハマキ ヨモギエダシヤク	1000倍	200～700 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	3回以内		
うめ	モンクロシヤホ	2000倍	200～700 L/10a	収穫3日前まで	3回以内	3回以内		

(1) 5%クロマフェノジドフロアブル剤 (つづき)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロマフェノジドを含む農薬の総使用回数
未成熟とうもろこし	アワノメイガ	2000 倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
さといも かんしょ	ハスモンヨトウ			収穫7日前まで			
しょうが	ハスモンヨトウ	1000~2000 倍	100~300 L/10a	収穫前日まで			
きく		2000 倍	100~300 L/10a	発生初期	4 回以内		4 回以内
トルギキョウ	シイロモリヨトウ				5 回以内		5 回以内
さくら	アメリカシロヒトリ			—			

(2) 0.3%クロマフェノジド粉剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロマフェノジドを含む農薬の総使用回数
稲	ニカメイチュウ	3~4 kg/10a	収穫14日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
	コブノメイガ イネトムシ フタホシコヤガ	4 kg/10a				
だいず えだまめ	ハスモンヨトウ		収穫前日まで	3 回以内		3 回以内

(3) 0.2%クロマフェノジド粉剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロマフェノジドを含む農薬の総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類 コブノメイガ	4 kg/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
だいた	カメシ類		収穫 7 日前まで	3 回以内		3 回以内
えだまめ	ハスモンヨトリ					

6. 農薬の作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

クロマフェノジド (2' - *tert*-ブチル-5-メチル-2' - (3, 5-キシロイル) クロマン-6-カルボヒドラジド)

② 分析法の概要

クロマフェノジドはアセトニトリル又は含水アセトニトリルで抽出した後、シリカゲルカラム、中性アルミナカラム等のカラムクロマトグラフィーで精製し、高速液体クロマトグラフにより定量する。クロマトグラフィーに使用するカラムは作物により異なる。

定量限界 0.005~0.05ppm (作物により異なる)

(2) 作物残留試験結果

① 水稻

水稻 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.3%粉剤を 1~2 回散布 (4kg/10a) したところ、散布後 14~29 日のクロマフェノジドの最大残留量は 0.008ppm、<0.005ppm であった。

水稻 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、5%フロアブル剤の 1,000 倍希釈液を 2 回散布 (150L/10a) したところ、散布後 6~21 日のクロマフェノジドの最大残留量は 0.042ppm、0.02ppm であった。

水稻 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、5%フロアブル剤の 16 倍希釈液を 2 回散布 (800mL/10a) したところ、散布後 7~14 日のクロマフェノジドの最大残留量は<0.02ppm、<0.02ppm であった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、0.3%粉剤を1～2回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～29日のクロマフェノジドの最大残留量は2.39ppm、0.52ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後6～21日のクロマフェノジドの最大残留量は2.32ppm、1.10ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の16倍希釈液を2回散布（800mL/10a）したところ、散布後7～14日のクロマフェノジドの最大残留量は1.11ppm、0.81ppmであった。

## ②とうもろこし

とうもろこし（未成熟）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後1～15日において<0.01ppm、0.01ppmであった。

## ③だいず

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の500倍希釈液を3回散布（200L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後1～14日において0.13ppm、0.18ppmであった。

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の16倍希釈液を3回散布（0.8～0.91L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後1～15日において<0.02ppmであった。

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の16倍希釈液を3回散布（0.8L/10a）したところ、散布後1～14日のクロマフェノジドの最大残留量は0.02ppmであった。

だいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の8倍希釈液を3回散布（0.8L/10a）したところ、散布後1～14日のクロマフェノジドの最大残留量は<0.01ppm、0.01ppmであった。

## ④さといも

さといも（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（150L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後1～14日において<0.01ppm、<0.01ppmであった。

## ⑤かんしょ

かんしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（150L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行わ

れていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後7～14日において<0.01ppm、<0.01ppmであった。

⑥てんさい

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を2～4回散布（150L/10a）したところ、散布後14～21日のクロマフェノジドの最大残留量は<0.01ppm、<0.01ppmであった。

⑦だいこん

だいこん（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後7～14日において0.24ppm、1.26ppmであった。

⑧だいこん

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後7～14日において<0.01ppm、<0.01ppmであった。

⑨はくさい

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を4回散布（200L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後7～21日において0.08ppmであった。

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を4回散布（201L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後7～21日において0.24ppmであった。

⑩キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を4回散布（200L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後7～21日において0.24ppmであった。

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を4回散布（100～150L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後7～21日において0.60ppmであった。

⑪ブロッコリー

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（208L/10a）したところ、散布後1～14日のクロマフェノジドの最大残留量は0.96ppmであった。

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後1～14日のクロマフェノジドの最大残留量は0.46ppmであった。

#### ⑫レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日のクロマフェノジドの最大残留量は0.64ppm、0.45ppmであった。

#### ⑬サラダ菜

サラダ菜（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（100～150L/10a）したところ、散布後21日のクロマフェノジドの最大残留量は<0.05ppmであった。

サラダ菜（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後21日のクロマフェノジドの最大残留量は<0.05ppmであった。

#### ⑭リーフレタス

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（50～160L/10a）したところ、散布後21日のクロマフェノジドの最大残留量は0.40ppmであった。

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後21日のクロマフェノジドの最大残留量は0.68ppmであった。

#### ⑮ねぎ

葉ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を1～3回散布（150L/10a）したところ、散布後7～21日のクロマフェノジドの最大残留量は0.22ppm、0.30ppmであった。

#### ⑯ねぎ

根深ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を1～3回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日のクロマフェノジドの最大残留量は0.30ppm、0.06ppmであった。

#### ⑰わけぎ

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（150L/10a）したところ、散布後7～14日のクロマフェノジドの最大残留量は0.38ppm、0.42ppmであった。



⑱ トマト

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日のクロマフェノジドの最大残留量は0.20ppmであった。

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（200～230L/10a）したところ、散布後1～7日のクロマフェノジドの最大残留量は0.16ppmであった。

⑲ ミニトマト

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後7～14日のクロマフェノジドの最大残留量は0.14ppm、0.12ppmであった。

⑳ ピーマン

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日のクロマフェノジドの最大残留量は0.50ppmであった。

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日のクロマフェノジドの最大残留量は0.45ppmであった。

㉑ なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日のクロマフェノジドの最大残留量は0.10ppmであった。

なす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（150～180L/10a）したところ、散布後1～7日のクロマフェノジドの最大残留量は0.20ppmであった。

㉒ ししとう

ししとう（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の2,000倍希釈液を3回散布（350L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後1～7日において0.33ppmであった。

ししとう（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の2,000倍希釈液を3回散布（202～252.5L/10a）したところ、散布後1～7日のクロマフェノジドの最大残留量は0.24ppmであった。

㉓ きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行わ

れていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後1～7日において0.08ppm、0.10ppmであった。

#### ⑳メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（300L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後1～14日において<0.01ppmであった。

メロン（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（250L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後1～14日において<0.01ppmであった。

#### ㉑おくら

おくら（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の2,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日のクロマフェノジドの最大残留量は0.24ppmであった。

おくら（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の2,000倍希釈液を3回散布（250L/10a）したところ、散布後1～7日のクロマフェノジドの最大残留量は0.20ppmであった。

#### ㉒しょうが

しょうが（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（200L/10a）したところ、散布後1～14日のクロマフェノジドの最大残留量は<0.01ppm、<0.01ppmであった。

#### ㉓実えんどう

実えんどう（子実）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の2,000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日のクロマフェノジドの最大残留量は<0.1ppm、<0.1ppmであった。

#### ㉔えだまめ

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の500倍希釈液を3回散布（200L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後1～7日において1.57ppmであった。

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の500倍希釈液を3回散布（238L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後1～7日において2.90ppmであった。

#### ㉕はすいも

はすいも（葉柄）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の2,000倍希釈液を2回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日のクロマフェノジドの最大残留量は<0.01ppm、<0.01ppmであった。

#### ⑩りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を1回又は2回散布（700L/10a）したところ、散布後14～28日のクロマフェノジドの最大残留量は0.179ppm、0.202ppmであった。

#### ⑪なし

なし（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後1～14日のクロマフェノジドの最大残留量は0.49ppmであった。

なし（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（450L/10a）したところ、散布後1～14日のクロマフェノジドの最大残留量は0.19ppmであった。

#### ⑫もも

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、5%フロアブル剤の500倍希釈液を3回散布（400L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後1～14日において0.02ppm、0.02ppmであった。

#### ⑬うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（250L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後3～14日において0.46ppmであった。

うめ（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（312L/10a）した。この試験は適用の範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内で最も大きな残留量は散布後3～14日において1.20ppmであった。

#### ⑭おうとう

おうとう（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（500L/10a）したところ、散布後14日のクロマフェノジドの最大残留量は0.34ppmであった。

おうとう（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、5%フロアブル剤の1,000倍希釈液を3回散布（700L/10a）したところ、散布後14日のクロマフェノジドの最大残留量は0.36ppmであった。

#### ⑮いちご